



たまごの

第155号

令和7年10月1日発行

発行所／一般社団法人
長崎大学玉園同窓会
〒850-0029
長崎市八百屋町36番地
TEL 095-824-5494

発行人／安部 和隆
印刷／株式会社 岩永印刷所

巻頭言 ～時々の初心忘るべからず～

平戸市教育委員会 教育長 入口 政信



私事ですが、私は昭和57年4月から教職に就き、令和2年3月末に60歳の定年を迎え退職しました。定年を迎えた時、再任用という道もあったのですが選びませんでした。学校は即戦力となる再任用の教師を求めています、私は担任を長くしておりませんでしたので、すぐに担任ができる自信もなく、以前からゴールとしてきた60歳定年退職の道を選びました。

それからは知人からお借りした畑で家内と二人、農業の真似事をしながら過ごしていました。また、自治会の役員をお引き受けし、微力ながら地区のお世話もしていました。退職後、改めて思ったことは、豊かな地域社会をつくるためには人材が何よりも大切であり、生涯にわたる学習がいかに大事であるかということです。

そのような折、教育長就任の話をいただきました。恐れ多いことで迷いはありましたが、学校教育を含め広く生涯学習に関わることができる機会と思い、昨年の12月に本職に就くこととなりました。

5年ぶりに学校を訪れてみて、教育の現場が以前にも増して疲弊している状況を感じています。疲弊の元は、重層化する教職員の業務にあります。中でも保護者や子供への対応が負担を増大させています。そこにはコロナ禍や働き方改革により保護者との直接の関わりが減少し、互いの信頼関係が低下していることも根底にあると思われます。保護者については学校とともに子供を育てようとする意識が低下し、子供の様子も変わってきています。学校と保

護者との信頼関係の再構築、教師が子供と向き合う時間の確保、家庭の教育力の底上げなどが喫緊の課題です。

さらに地域社会に目を転じると、地域の教育力の低下のみならず、楽しみや仲間を持たずに暮らしている高齢の方が増えている状況や、地域のリーダーとなる後継者の減少という問題があります。人生100年と言われる現在、生涯学習の重要性はますます高まっています。

今回、教育長を拝命するにあたって、私は現職時代の基本に還り、次のことを目指すことにしました。学校教育については心の教育を大切にすること、知的好奇心を大事にすること、生涯学習では生きがいを生み出す場を作ること、職場については働く環境を整えること、の4点です。

「是非の初心忘るべからず 時々の初心忘るべからず 老後の初心忘るべからず」

これは室町時代の能役者、世阿弥の言葉とされています。限らない芸の向上を目指した世阿弥は、未熟だった若い頃の己の姿を忘れず、さらにその時々の年齢にふさわしい芸に挑んでいくべきで、年老いても芸に終わりはなく、人は生涯に渡り学び続けていかなければならない、と教えています。

一度は退職した身ではありますが、未熟な自分を思い知りながらも世阿弥の「時々の初心」という言葉を胸にして、今の自分が為すべきことに向かう日々です。

目次 <新人特集>

P1	【巻頭言】	入口 政信
P2	【新任教員になって！】	川原 功太郎、豊福 絢、谷口 凜、宮田 果歩
P3	【新任教頭になって！】	上戸 友香、小森 わかな
P3	【新任校長になって！】	平間 博人、松尾 善久
P4	【教育学部へ入学して！】	青木 晴香、上野 紗紀、濱浦 結羽、小副川 娃心
P4	【教員採用セミナーを受講して！】	北嶋 瑚子、楠本 一真
P5	【母校だより】	藤本 登
P6、7	【令和7年度総会報告、令和6年度収支計算書、令和7年度収支予算書】	
P8	【事務局だより】	

新 人 特 集

～ 教員になって～

川原 功太郎 (R 7 年卒・富の原小学校)



教員となって約 4 か月が経ちました。小さいころからの夢だったこの職に就き、子どもたちと過ごす日々は新鮮で、毎日がとても充実しています。一方で、初めてのことでばかりで戸惑い、思うようにいかず悩むことも多くありました。そんな中でも、毎朝、教室で子どもたちが笑顔で挨拶してくれる姿に、何度も励まされました。

教員として働き始めて今思うことは、大変なことも多い仕事ではありますが、子どもたちの成長を最も近くで見守ることができ、ともに喜びを分かち合えるということにはかけがえのないものであるということです。子どもたちが苦手なことに向き合い、壁を乗り越えようと頑張

る姿や、好きなことに夢中になって取り組む姿を見守り、ともに成長していくことができるということに、大きなやりがいを感じます。子どもたちの苦手なことには寄り添い、得意なことは更に伸ばせるよう支えながら、一人一人の力を引き出せるよう支援していきたいです。

まだまだ学ぶことは多くありますが、子どもたちとともに自分自身も成長できるよう、日々の実践を大切に、笑顔と前向きな気持ちを忘れず、教員として一歩ずつ歩んでいきたいと思っています。

～ 教員になって～

豊福 絢 (R 7 年卒・平戸中学校)



教員 1 年目として迎えた 1 学期。新しい環境での学校生活に胸を膨らませていましたが、思い描いていた教員生活とは異なり、多くの困難にぶつかる日々でした。すべてが初めての経験であり、分からないことばかりでした。授業や生徒との関わり方には正解がないからこそ、自信が持てず、教員としての力不足を痛感し、悩むこともありました。

そんな苦しい日々を乗り越えられたのは、周りの先生方や子どもたちのおかげです。本校では、「笑顔・続け

る・支え合う」を生徒と教職員の共通テーマとして掲げています。その中で、子どもたちや先生方の笑顔、温かい言葉に何度も支えられました。生徒から「理科が楽しいです」と目を輝かせて言ってもらえた時や、生徒が自分自身と真剣に向き合い、挑戦する姿を見た時、私は教員という仕事を選んで良かったと心から思いました。

まだまだ教員として未熟ではありますが、生徒とともに多くのことを学び、ともに成長していきます。

～ 教員になって～

谷口 凜 (R 7 年卒・鶴南特別支援学校)



この春に大学を卒業し、特別支援学校小学部 5 年生の担任として勤務を始めて、4 か月が経ちました。最初には不安や緊張もありましたが、今では少しずつ学校の生活に慣れ、毎日子どもたちと関わる時間を楽しんでいます。職場の先生方は温かく、困ったときには親身に相談に乗ってくださるため、安心して仕事に取り組んでいます。

子どもたちは一人ひとりが個性豊かで、成長していく姿を見守れることに大きな喜びを感じています。一方で、こちらの思いがうまく伝わらなかったり、子どもの気持ちをくみ取れなかったりする場面もあり、関わり方の難しさを実感しています。うまくいかなかった出来事

を振り返りながら、自分なりの関わり方を見つけていくことで少しずつ理解を深めていきたいです。また、子どもたちにとってわかりやすく、楽しい授業を考えることにも苦労しています。子どもたちの実態に合った内容や活動を考える難しさと向き合いながら、少しずつ改善や工夫を重ねていきたいです。

毎日が学びの連続で、大変なことも多いですが、それ以上にやりがいを感じる日々です。大学で学んだことを生かしつつ、これからも子どもたちと共に成長していく教員を目指していきたいです。

～ 教員になって～

宮田 果歩 (R 7 年卒・時和特別支援学校)



教員になって約 5 か月が経ちました。1 学期は全てが初めての経験で、不安な気持ちと、期待が入り混じった日々でした。しかし、子どもたちの笑顔、成長していく姿に「教員になってよかった」と心から思える瞬間が何度もありました。児童が苦手な活動に悔し涙を流しながら努力を重ね、できた瞬間に立ち会えた時や、発語がない児童がにこにこして初めて私を遊びに誘ってくれた時など教員としての喜びを感じています。

このような充実した教員生活となっているのは、周囲の先生の支えがあってこそだと感じています。教壇に立つにあたり、授業や日常生活面での指導で力不足を痛感

することがありますが、先生方から常に気にかけてもらい、子どもたちとともに成長を歩んでいく存在としての姿勢や指導法を教わりました。

また、先生方それぞれが大切にされているぶれない思いを持ち、子どもたちと真摯に向き合う姿を見て、私も理想とする教師像を模索し続けています。

2 学期は、1 学期以上に教員としてのスキルを高めることができるよう、今までの指導を見つめなおすとともに、主体的に学び、子どもたちとともに成長できるよう日々精進していきたいです。

～ 新任教頭になって～

上戸 友香 (H13年卒・日吉小中学校)



今年度4月より、日吉小中学校の小学校新補教頭として着任し、早くも約半年が過ぎ、季節は秋へと移り変わろうとしています。

本校は、豊かな自然に恵まれた地区にあります。特産品のびわをはじめ、いちごや花など、四季折々の作物が実る美しい場所です。児童数は17名。完全複式学級という特色をもち、保護者の皆様と子どもたちが一つの家族のように温かい絆で結ばれています。PTA活動や学校行事には全家庭が参加し、子どもたちも互いに助け合って生活しています。地域・学校全体が、まるで産毛がついたふんわりとしたびわの実のように、優しく、柔らかで、温かい雰囲気包まれています。このような素晴らしい環境で教頭としての第一歩を踏み出せたことを、とてもありがたく思う日々です。

正直なところ、赴任当初は期待や喜びよりも、不安と緊張が大きかったものです。特に、引き継ぎの際、前任の教頭先生から驚くほど多くの鍵の束とファイルをいただいたときには、責任の重みを感じ、身が引き締まる思

いでした。新年度の幕開けは、つい昨日までの「上戸先生」として授業と向き合っていた日々から一転、初日から「教頭先生」と呼ばれ、書類提出や新年度準備、PTA・地域の皆様との打ち合わせに追われる、本当に目まぐるしい日々となりました。何がどこにあるのかも分からない手探りの状況でしたが、校長先生をはじめ、中学校の教頭先生、昨年度からいらっしゃる先生方、そして温かく迎えてくださった地域の皆様に助けていただき、今に至っております。

若い頃、先輩の先生から「上戸先生のいいところは、とにかく、全力で一生懸命なところだ。その姿勢だけは大事にしてほしい。」という言葉をかけていただきました。それが今も私の原動力です。以来、何事にも手を抜かず、できることを一生懸命にやり抜くことを心がけてきました。まだまだ未熟ではありますが、校長先生を全力で支え、地域と先生方、学校を繋ぐ架け橋となれるよう、日々精進してまいります。

～ 教頭になって～

小森 わかな (H13年卒・鳴北中学校)



グラウンドにつながる職員室の出入口から一步外に出る。夜の間に閉じた花びらが開きだす朝、グラウンド越しに見える青い海を眺めながら一呼吸。間もなく生徒や職員の声が聞こえ始め、学校が動き始める。同時に私の一日も始まる。

それからの時間は怒涛の如く過ぎていく。何事にもまっすぐに向き合いたい一心で教頭職を全うしているつもりだが、思うように動けずにもがく日も多い。

学校は様々なことが起こる。それは子どもの人生を大切に思う多くの方々、そして本人の思いが交錯する場所だからだと思う。そんな「思い」を大事にしたいと思う気持ちには教頭になっても変わらない。

一方で教頭になって変化を感じたのは「広がり」だ。

それは生徒に向けていたまなざしであり、視野や対応の幅であり、つながりである。まなざしは全校生徒に広がり、生徒が成長していく喜びを分かち合いたいと願う方々とのつながりも広がった。

朝眺めていた海からパーロン練習の音が聞こえてきた。生徒や職員が今日一日に満足して帰宅していることを願いながら帰路につく。今日も奮闘の日だったが心地よい疲労感に満ちている。

明日もきっといい日になる。そんな日々を積み重ねながら新米教頭として少しずつ成長していきたい。

鳴北中学校での出会いに心から感謝しながら。

～ 「つながり」を大切に～

平間 博人 (H10年卒・仁田中学校)



4月から対馬市立仁田中学校に、新任校長として赴任いたしました。これまで教員として生徒の成長を第一に考え、未熟ながらも自分なりに教育と向き合ってきました。しかし振り返ってみると、生徒・同僚・地域の方々とつながりの中で、私自身が成長させていただいたことを改めて感じます。その経験から私は、学校経営の柱として、「生徒・職員・保護者・地域が成長する学校づくり」を掲げました。学校に関わる全ての人々の成長の拠点となるような仁田中学校を、つながりを大切にしながらつくり上げたいと思っています。

つい先日、他県の教育事務所に勤務する長崎大学時代

の同級生と再会し、久しぶりに語り合いました。思い出話や仕事の悩みなど、彼とだからできる話が楽しく、あっという間に時間が過ぎました。同級生とのつながりを嬉しく思うと共に、自分もまた頑張ろうと思えた1日でした。県内にも教職で頑張っている多くの仲間がいます。私にとって彼らの存在もまた、大きな力になっています。

これからも、生徒・職員・地域・同級生・先輩・後輩、たくさんの「つながり」に感謝しながら、めざす学校像に近づけるよう邁進していきます。

～ 校長になって～

松尾 善久 (H2年卒・鹿町工業高校)



校長として、何よりも大切にしたいのは、生徒一人ひとりが「自分らしく輝ける場所」を創り出すことです。

体育教師としての経験から、学力向上だけでなく、心身の健康とバランスの取れた成長こそが、未来を豊かにすると信じています。特に重要なのが、体育の授業や部活動を通じて培われる「非認知能力」の育成です。困難に立ち向かう粘り強さ、仲間と協力する協調性、目標達成への集中力など、これらの力は、いつの時代にも通用する普遍的なスキルです。様々な身体活動を通じて心と体を鍛え、挑戦することの楽しさ、そして失敗から学ぶ大切さを実感できる機会を増やしたいと考えています。

鹿町工業高校に赴任し、学校重点目標を「行動改革／個性を伸ばすキャリアデザイン」の構築とし、多様な進路選択肢の提供と、将来を主体的に切り拓く力の育成を図ることを生徒・職員に伝えました。

実習や課題研究等において、地域の企業等と連携し、実社会とのつながりを感じながら、最先端の技術に触れ、主体的に学ぶ姿勢を身に付け、「未来を創る力」を獲得してほしいと願っています。

そして、「この学校で学べてよかった」と胸を張って言える、そんな学校を創ることを目指します。

学生の声

～大学に入学して～

この春、私は憧れであった長崎大学教育学部幼児教育コースに入学しました。

私の目標は、人とのつながりを大切にできる幼稚園教諭になることです。そのために必要な知識やスキルだけでなく、自分自身の内面も磨いていきたいと考えていました。長崎大学は、まさにその両方を実現できる環境だと感じています。

本学はボランティア活動が盛んで、私も地域の夏祭りの

青木 晴香 (幼児教育コース)



ボランティアに参加しました。生き生きとした子どもたちとの交流から子どもとかわる楽しさを感じることができ、さらに先生になりたいという気持ちが強まりました。教師への道には、決して憧れだけでは乗り切れない困難や不安もありますが、ともに教師を志す仲間となら、一緒に乗り越えていけると感じています。

～教育学部に入学して～

長崎に来て、早くも半年が経ちました。私は、小学6年生の時の担任のように、子どもたちを楽しませながら正しく導ける先生になりたいという思いを胸に、教育学部へ進学しました。大学の授業は、「学ぶ側」ではなく「教える側」の視点で捉え直す内容が多く、とても新鮮です。それだけでなく、学校の役割や教師間のコミュニティ、子どもの理解や心理学的アプローチなど、より教育に焦点を当て

上野 紗紀 (小学校教育コース)



た内容も学んでいます。

一人暮らしやアルバイト、授業課題、ボランティアなど、中々ハードな日々ですが、思い切って県外に出たからこそ得られた経験も多いです。これから4年間、教育学部の仲間と切磋琢磨しながら成長していきたいです。

～キャリア支援セミナーを受講して～

今回キャリア支援セミナーを受けて、教育一つとっても様々な形があるという気づきを得たとともに、これから複雑・多様な社会で様々な能力を求められる子どもたちをどのような形であっても支援していく体制を整えていくべきだと考えました。

今回は子育て支援教室を開かれている講師の先生のお話をお聞きして、その中でも様々な子どもたちがいて、義務教育内であるために小中学校の校長先生や先生方のある程度の理解が必要となりますが、まだ普及されていないことから理解されないこともあると知りました。これから教師

濱浦 結羽 (小学校教育コース)



になった時にこのような子どもたちに出会ったときに自分自身が理解をもって子どもたちや家族の方と接していかなければならない、また同じ学校で勤務する先生方にも理解と子どもたちの支援ができるよう協力を促していかなければならないと考えました。

教育の世界はとても広いと思うので、これから4年間の学びや経験を通して多くの知識を取り入れ、子どもたちののびのびと学ぶことのできる環境を作っていきたいと思います。

～教育学部に入学して～

大学に入学してから、ボランティア活動やアルバイトなどこれまで経験のなかった新しい挑戦を数多くしてきました。特にボランティア活動では、子どもや障がいのある方と初めて密に関わり、一人一人の思いや個性に触れる中で自分の価値観や視野が大きく広がりました。大学生活を通して、自分から行動し学びの場をつくり出すことの大切さを強く実感しています。この夏は新たな挑戦として、手話

小副川 娃心 (特別支援教育コース)



の勉強を始めます。より多くの人とコミュニケーションをとり、将来教育の現場でも活かせるスキルを身に着けたいと考えています。今の恵まれた環境に感謝しながら、これからも挑戦を重ね、自分を成長させていきたいです。

～教採セミナーを受講して～

セミナーでは、教員採用試験について丁寧に教えていただきました。面接に関する書類の作成では、私の話を親身になって聞いてくださり、アドバイスをいただいたことで、自分の教育観がより深まったと感じています。また、面接練習では本番のような緊張感の中で練習することができ、試験当日をイメージすることができました。さらに、現在の教育界の動向や学んでおくべき知識、新規採用後の先生

北嶋 瑚子 (小学校教育コース)



方の様子なども教えていただきました。試験のその先まで見越したお話からも多くの学びを得ることができました。

セミナーでの温かいご指導により、教員採用試験で自分の持つ力を十分に発揮することができました。本当にありがとうございました。

～教採セミナーを受講して～

面接調査票の添削と個人面接の対策をしていただきました。面接調査票は、講師の先生と話をしながら一緒に添削をしていただきました。私の場合、過去にお世話になった先生が数名いらっしゃる、私の長所や強みをより端的に明確に伝えられるような調査票と一緒に考えてくださいました。面接の対策では、質問に対する回答の組み立て方や話

楠本 一真 (中学校・理科コース)



し方、所作など、内容はもちろん、それ以外の細かいところまで指導いただきました。また、セミナーを通して、さまざまな教職に対する考え方や知識を教えてください、面接での回答の引き出しを増やすことができ、自信をもって面接に臨むことができました。

母校だより

教育学部長 藤本 登

先日、福島県川内村の小中学園の6・7年生17名の訪問を受けた。これは、平成23年の東日本大震災とそれによって引き起こされた東京電力福島第一原子力発電所事故による放射線による被害への支援活動の一環として平成25年度から取り組まれている「復興子ども教室」の長崎研修である。教育学部では、附属小学校での交流授業や平和集会への参加、医学部の原研ミュージアム等の訪問や長崎東高校生との平和学習、教育学部での川内村のブドウを使った色素増感太陽電池製作体験普賢岳の火砕流被災者との交流などを支援しており、福島の児童生徒のみならず支援学生も多くのことを学んでいる。戦後80年を迎え、昨今の世界情勢を見るとまた歴史が繰り返さないか懸念されている方は多いのではないだろうか。長崎県教育会から寄贈戴いた「長崎原爆学校被災誌」には、附属小学校の場所にあった長崎師範学校男子部の被災状況が克明に記されており、当時の惨状や救助活動の様子、その後の復興と原爆症との戦いが読み取れ、あらためて長崎で教育することの意味を学生と共に考えたいと思っている。そのような中で8月9日の教育学部原爆慰霊祭は、山崎滋夫先生をはじめ多くの方に参列いただいた。今年度から天候や猛暑のことを考え、学部建屋内での式典と供養塔での参拝を別に行うことにしたが、原爆の惨禍を考えると供養塔の前でと思わなくもない。



復興子ども教室事業（附属小学校での研修）

さて昨年度から始めた高校生対象の教職セミナーを今年度は8月4日に大学で開催し69名の参加者を得た。9月13日には新上五島町で小学6年生とその保護者を含む44名の参加を得る予定である。内容としては現職教員の教職生活や在学生の大学生活に関する講演、音楽・美術・技術・家庭と心理学に関する講義体験、現職教員や大学生を交えたグループ座談会を行った。参加したほとんどの高校生が教職への理解と興味が高まり、グループ座談会での現職教員が持参した授業づくりノートや学生による学生

活の現状についての話は、具体的に分かり易いと好評であった。アンケートに見る高校生が考える教育学部の魅力は、「教職への興味を深める機会」「現場のリアルな体験」「多様な学びの内容」「進路選択の指針」「教職の魅力の再発見」であり、進路選択の参考になったようである。



教職セミナー（附属教員・学生との座談会）

今年度の長崎県公立学校教員採用選考試験は5月11日と九州内の他の自治体の6月15日と異なったこと、また3年生の受験も始まり、教員志望の学生にとっては受験機会が増えたことから、併願も含めて本学部の進路動向はつかみづらくなっている。その中で、玉園同窓会には面接指導を長期間行っていた。教員就職率が令和4年度の70.6%をピークに低下傾向にあり、さらなる学校現場も含めた連携・強化が必要である。一方で、3年ぶりに本学部生が教職大学院を受験する。学部の講義や広報活動も強化したが、現職院生によるTeacher's CaféやOBによる3CATS長崎の取組みも大きいと考えている。関係各位に感謝である。

最後に、今年度は、研究者教員3名 佐藤博助教（人文地理学）、和田玲助教（英語科教育）、野中陽一朗准教授（教育工学）と、実務家教員3名 大場祥一教授（中学校）、西山陽子准教授（中学校）、下田渚（特別支援学校）と、県教育センターとの交流人事による見なし専任教員1名 大川周一准教授（高校）と、附属小学校に森内秀学校長が着任された。また教授昇進2名 高橋甲介（特別支援）、福山隆雄（物理）と准教授昇進1名 宮津寿美香（家庭・保育）があった。これらの先生方が個性を発揮し、教員や学生、附属学校や地域教育界とハーモニーを奏で、新たな学部や大学院、そして附属学校を創ってもらいたい。

令和 7 年度 総会 報告

日時：令和 7 年 6 月 22 日（日）13 時 30 分～
場所：桜町小学校内地域・学校交流センター

全ての議案について、全会一致で承認された。
なお、会計報告及び予算案は、次頁に掲載。

第 1 号議案 令和 6 年度事業報告及び会計報告

- 1 会員の確認・報告について
 - (1) 教育学部入学生に入会案内状配布（180部）
入会者 84 名
 - (2) 現職退職者のいる学校等へ終身会員への入会案内メールを送信した。入会者 7 名
- 2 総会・理事会の開催について
 - 総会：6 月 23 日（日）桜町小地域・学校交流センター
 - 理事会：6 月 8 日（土）教育会館 3 F 大会議室
12 月 14 日（土）教育会館 3 F 大会議室
- 3 会報の発行（153 号、154 号）について
 - 153 号：令和 6 年 10 月 1 日発行
 - ・会長バトンタッチしました！、新人特集、総会報告、収支決算・予算、母校だより、事務局だより他
 - 154 号：令和 7 年 3 月 1 日発行
 - ・実践報告、現職教員の声、県外からこんにちは、私も頑張っています！、母校だより、事務局だより他
 - ※カラー横書き
- 4 教育学部との連携事業について
 - 原爆慰霊祭（令和 6 年 8 月 9 日）
 - 玉園賞（優秀学生表彰）授与
- 5 公益事業の充実について
 - 学校図書購入助成事業（小学校 1 校、中学校 1 校、高等学校 1 校、特別支援学校 1 校）
 - 児童・青少年育成事業
 - ・長崎県立壱岐高等学校野球部（第 97 回選抜高等学校野球大会に 21 世紀枠として長崎県で初の出場を果たす。最優秀応援団賞を受賞）
 - 修学・就業支援事業（対象：教育学部生）
 - ・キャリア支援セミナー（1 年次対象）開催
 - ・教員採用試験対策セミナー（4 年次対象）開催
- 6 地区懇話会の実施について
 - コロナ禍等での中断があり、会の在り方など検討を継続する。

第 2 号議案 令和 7 年度事業計画(案)及び予算(案)について

- 1 総会・理事会の開催について
 - 総会：6 月 22 日（日）
地域・学校交流センター：桜町小
 - 理事会：6 月 7 日（土）
教育会館 3 F 大会議室
12 月予定

- 2 会報の発行（155 号、156 号）について
 - 155 号：令和 7 年 10 月 1 日発行予定
 - 156 号：令和 8 年 3 月 1 日発行予定
- 3 教育学部との連携事業について
 - 原爆慰霊祭
 - 玉園賞（優秀学生表彰）授与
- 4 公益事業について
 - 修学・就業支援事業（対象：教育学部生）
 - ・キャリア支援セミナー（1 年次対象、2 年次対象、3 年次対象）
 - ・教員採用試験対策セミナー（4 年次対象）
 - 学校図書購入助成事業（4 校程度募集）
 - 児童・青少年育成事業（募集）
- 5 玉園同窓会地区懇話会について
 - 感染症対応等を鑑み対象や開催方法を検討
- 6 事業の改善と効率化について
 - 県内学校や教育機関への総会案内を電子メールによって行うことにした。

第 3 号議案 役員改選について

新理事 森内秀学（附属小学校長の異動に伴う改選）

第 4 号議案 大学生の会員登録率の向上について

- 会員登録率
 - ・4 年生・・・16.1%
 - ・3 年生・・・8.9%
 - ・2 年生・・・46.7%
 - ・1 年生・・・47.2%
- 会員登録率向上に向けて、各学年向けのキャリア支援セミナーや教採セミナーの充実を図る。
- 学部と連携して、学部長・就職委員長・同窓会長が入会案内について話をしたり、オリエンテーションで入会案内及び振込用紙等を配付したりする。

第 5 号議案 郵便料金の増加に伴う取り組み

- 郵便局からの入金通知の変更
令和 7 年 3 月までは、郵便局から郵送（一通 110 円、4 月からはさらに月ごとに 550 円）。令和 7 年 4 月からは、インターネットの「ゆうちょダイレクト」によるパソコンでの打ち出しに変更した。
- 各学校、教育関係機関（約 560 か所）への総会案内を郵送から e-mail へ変更。
- 終身会員、一般会員への案内（往復はがき）の委任状を、1 択（委任します）から 2 択（今年は委任・永年委任）に変更。次年度からののはがきの減少による経費削減を期待。

※総会開催は、一般社団法人の大切な使命です。総会の案内につきましても、会報やホームページなどを活用し、確実にを行い、常に開かれた場を提供しておきます。

令和6年度 収支計算書・令和7年度 収支予算書

令和6年度 収支計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入	400,000	500,000	-100,000	入学者100名
2. 会費収入	1,900,000	1,818,594	81,406	
3. 雑収入	5	497	-492	
4. 繰入金収入	2,750,000	1,750,000	1,000,000	
当期収入合計 (A)	5,050,005	4,069,091	980,914	
前期繰越収支差額	9,321	9,321	0	
収入合計 (B)	5,059,326	4,078,412	980,914	
II. 支出の部			0	
1. 事業費	2,173,200	2,041,807	131,393	
2. 管理費	2,786,126	2,332,816	453,310	
3. 固定資産取得購入支出	0	96,770	-96,770	
4. 予備費	0	0	0	
5. 繰入金支出	100,000	120,000	-20,000	退職積立金特別会計へ
当期支出合計 (C)	5,059,326	4,591,393	467,933	
当期収支差額 (A)-(C)	-9,321	-522,302	512,981	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	0	-512,981	512,981	

令和7年度 収支予算書 (案)

令和7年4月1日から令和8年3月31日

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入	500,000	400,000	100,000	入学者 100名
2. 会費収入	1,800,000	1,900,000	-100,000	
3. 雑収入	490	5	485	
4. 繰入金収入	2,550,000	2,750,000	-200,000	
当期収入合計 (A)	4,850,490	5,050,005	-199,515	
前期繰越収支差額	-66,355	9,321	-75,676	
収入合計 (B)	4,784,135	5,059,326	-275,191	
II. 支出の部				
1. 事業費	2,283,200	2,173,200	110,000	
2. 管理費	2,400,935	2,786,126	-385,191	
3. 固定資産取得購入支出	0	0	0	
4. 繰入金支出	100,000	100,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計 (C)	4,784,135	5,059,326	-275,191	
当期収支差額 (A)-(C)	66,355	-9,321	75,676	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	0	0	0	

事務局だより

事業等の報告

<玉園教師塾>

◎教採セミナー（4年次対象）について

5月12日(月)17時40分から、11番教室にて教採セミナーの開講式が行われました。

藤本学部長、安部玉園同窓会会長の挨拶と講師の自己紹介の後、倉田登勝先生の講話を行いました。4年生83名が参加し、熱心に耳を傾けていました。

●日時：5月12日(月)～8月1日(金) 39日間

※一日1コマ

●内容：面接、模擬授業、小論文等への対策

●受講者数：のべ990名

◎キャリア支援セミナー（1年次対象）について

新1年次学生対象に標記セミナーを開催しました。

●日時：令和7年7月3日(木) 16時30分～18時

●会場：長崎大学教育学部 31番教室

●参加対象：玉園同窓会学生会員（新1年生）

●講師（外部講師として依頼）：

的野 郁美氏（N-school子育て支援教室
mahana代表）

赤城 理恵子氏（長崎大学キャリアセンター
専門職員）



<教育学部原爆慰霊祭>

令和7年度の教育学部原爆慰霊祭は、雨天のため、教育学部原爆慰霊碑の前で行うことができず、教育学部5階の多目的室で行いました。

●日時：令和7年8月9日(土) 10時58分～

●場所：教育学部5階 多目的室

（式次第）

一 藤本学部長のご挨拶

二 黙祷

三 安部玉園同窓会会長の慰霊のことは関係のみなさま、お世話になりました。



会費納入のお願い

県内外の一般会員の皆様、県内現職会員の皆様、先生方から納めていただいている1,000円の会費が、本会の大切な運営資金となっております。

現職の先生方は、貴校の学校代表者の先生を通して納入いただきますよう、よろしくお願いいたします。

一般会員の皆様は、同封しております振込用紙にて納入をお願いします。

お知らせ

60歳～になられる県内現職会員のみなさまは、終身会員になることで、①母校で教職等を目指す後輩の支援をはじめとして、②会報「たまぞの」の発行、③学校への図書購入助成、④青少年健全育成助成等へ参画することができます。

母校及び後輩のよりよい未来のために、どうか終身会員への入会をお願いいたします。

終身会員入会費：5,000円

入会フォーム



※亡くなられた会員がいらっしゃいましたら、お手数ですが、ご家族から事務局へお知らせください。

玉園同窓会ホームページ

<https://tamazono.net/>

玉園同窓会

YouTubeチャンネル



事務局へのご連絡

・電子メール：inf@tamazono.net（常時）

・電話・fax：095-824-5494（以下の時間帯）

曜日：火曜日、金曜日

時間：10時～14時30分

※不定期にお休みすることがあります。

題字：青嶋秋男